

科目名 (Eng)	異文化コミュニケーション演習 (Cross-Cultural Communication)								
担当教員	松江 優一								
対象学年等	学科・専攻 コミュニケーション 情報学科	学年 5	授業期間 後期	区分 必修	単位数 2	時間数 (30)	分野 専門	形態 B	学修単位科目 ○
目標基準 との対応	福島高専の教育目標との対応：(D-3), (D-4), (F-5). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応：6). JABEE基準1(1)との対応：f.								
授業の概要と方針	①日本国内における異文化交流の歴史と現状を把握する。 ②交流の深い諸外国との関係を文化交流の面から検討する。								
到達目標	①国内で起きている異文化間の諸問題、及び交流の深い諸外国との問題についてその根源の所在を理解し、発表できる。 ②日本人としての個人のアイデンティティを確立する。								
授業計画									
週	授業項目	理解すべき内容						事前学習	
後期	1 オリエンテーション	エスニシティの理解							
	2 アイヌと日本人1	幕末の北海道・樺太・千島のアイヌについて							
	3 アイヌと日本人2	戦前・戦後のアイヌと日本人							
	4 琉球と日本人1	琉球からみた日本と中国							
	5 琉球と日本人2	戦前・戦後の沖縄について							
	6 在日コリアン	日朝交流史概観							
	7 在日中国人	日中交流史概観						課題図書を授業日前に読み、して授業に臨むこと。	
	8 在日外国人	日本の移民対策の現状1							
	9 在外日本人	日本の移民対策の現状2						授業メモをもとに復習を怠らないこと。	
	10 西欧諸国の言語文化1	キリスト教の理解							
	11 西欧諸国の言語文化2	国際法成立過程の理解							
	12 西欧諸国の言語文化3	イスラム教の理解							
	13 日本人の言語文化1	神仏習合、儒教の影響							
	14 日本人の言語文化2	外来文化の日本文化化							
	15 後期学習したことの総括	期末試験解答用紙の返却、総復習							
試験について	中間試験は共通科目試験日に50分間の試験を実施する。期末試験は50分の試験を実施する。 再試験受験の条件：全ての課題を所定の日時までに提出してあること。								
評価方法	定期試験50%、授業メモ、課題等50%で評価する。								
教科書	配布資料								
参考書	授業中に指示する。								
関連科目	日本語特論、人間科学特講								
履修上の注意	授業時間中は講義中心で、自宅での学習が演習となる。授業中の講話や資料による知識をきっかけに、関連する記事や書籍を自身で調べることを心がけること。自学自習の確認方法：授業の予習或いは復習などの課題プリントを配布し、定期的に提出を求める。								